

「弁才船実物大部分模型」清掃整備作業

日程：2019年6月15日（土）・2020年2月15日（土）

場所：神奈川大学横浜キャンパス3号館地下1階 展示「弁才船実物大部分模型」

参加者：昆 政明 和船研究会有志

2019年度「弁才船実物大部分模型」清掃整備作業

昆 政明

横浜キャンパス3号館地下1階の正面奥に、木製の構造物が置かれている。これは、江戸時代から明治時代にかけて、日本の海上交通を担った廻船の一部分を実物大に復元した模型である。当時の廻船は大型船から小型船まで、弁才船（べざいせん）と呼ばれる船型がほとんどで、千石船と呼ばれる廻船も「1,000石の米を積むことができる弁才船」から「大型船」といった意味で使われた



写真1 作業状況（2019年6月15日）



写真2 作業状況 (2019年6月15日)



写真3 作業終了後記念写真 (2019年6月15日)



写真4 作業状況 (2020年2月15日)



写真5 作業終了後記念写真 (2020年2月15日)

言葉である。千石船の標準的な大きさは、長さが30m、幅が7mほどである。

復元展示されている実物大模型は、瀬戸内海芸予諸島の倉橋島で造船された100石(約150トン)積みの弁才船の設計図に基づいて作られたもので、製作者は現代の名工にも選択されていた静岡県焼津の近藤友一郎氏である。この模型は、横浜市歴史博物館で1997年に開催した企画展「海からの江戸時代——神奈川湊と海の道——」の展示物として製作されたもので、帆柱の部分5mを復元している。3号館1階の展示スペース内企画展示室で、和船についての企画展が開催されているので、これと合わせてみることによって、和船特徴を知ることができる。

展示場所が外気の入りやすい場所で、ホコリ等により汚れが目立ちやすい傾向があるが、特殊な構造のため専門知識を持ったものによる清掃作業が必要とされていた。これに対し、展示スペース開設時に開催された講演会「和船の世界」参加者を中心に、昆研究室で月1回開催される勉強会に参加している方々が「和船研究会」という任意の会を立ち上げ、この模型の清掃作業をボランティア活動の一環として行っている。これまでは年2回実施であったが、研究所で掃除機機器等を更新し、次年度からは年3回の清掃作業を予定している。